

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
法学部	法律学科	夜・通信			122	122	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		46	46	92	13	
	総合経済政策学科	夜・通信			66	112	13	
	国際経済学科	夜・通信			22	68	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		172	48	220	13	
	商学科	夜・通信			12	184	13	
	会計学科	夜・通信			6	178	13	
	キャリア・マネジメント学科	夜・通信			44	216	13	
理工学部	理学科	夜・通信		56	79	135	13	
	生命科学科	夜・通信			47	103	13	
	応用化学科	夜・通信			23	79	13	
	機械工学科	夜・通信			56	112	13	
	電気電子通信工学科	夜・通信			66	122	13	
	情報学科	夜・通信			10	66	13	
	社会環境工学科	夜・通信			43	99	13	

	エネルギー物質学科	夜・通信			36	92	13	
建築学部	建築学科	夜・通信			139	139	13	
薬学部	医療薬学科	夜・通信		48	60	108	19	
	創薬科学科	夜・通信			70.7	118.7	13	
文芸学部	文学科	夜・通信		136	16	152	13	
	芸術学科	夜・通信			190	326	13	
	文化・歴史学科	夜・通信			36	172	13	
	文化デザイン学科	夜・通信			42	178	13	
総合社会学部	総合社会学科	夜・通信			132	132	13	
国際学部	国際学科	夜・通信			82	82	13	
情報学部	情報学科	夜・通信			60	60	13	
農学部	農業生産科学科	夜・通信		21	66	87	13	
	水産学科	夜・通信			65	86	13	
	応用生命化学科	夜・通信			63	84	13	
	食品栄養学科	夜・通信			76	97	13	
	環境管理学科	夜・通信			86	107	13	
	生物機能科学科	夜・通信			55	76	13	
医学部	医学科	夜・通信			189.6	189.6	19	
生物理工学部	生物工学科	夜・通信		61	57	118	13	
	遺伝子工学科	夜・通信			69	130	13	
	食品安全工学科	夜・通信			79	140	13	
	生命情報工学科	夜・通信			36	97	13	
	人間環境デザイン工学科	夜・通信			62	123	13	

	医用工学科	夜・通信			95	156	13	
工学部	化学生命工学科	夜・通信		64	10	74	13	
	機械工学科	夜・通信			30	94	13	
	情報学科	夜・通信			44	108	13	
	建築学科	夜・通信			68	132	13	
	電子情報工学科	夜・通信			24	88	13	
	ロボティクス学科	夜・通信			34	98	13	
産業理工学部	生物環境化学科	夜・通信		14	16	30	13	
	電気電子工学科	夜・通信			18	32	13	
	建築・デザイン学科	夜・通信			85	99	13	
	情報学科	夜・通信			38	52	13	
	経営ビジネス学科	夜・通信			16	30	13	
通信教育法学部	法律学科	夜・通信			16	16	13	
(備考) 電気電子工学科：2022年に電気電子通信工学科に名称変更 情報学科：2022年に募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページで公表

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/course-subject/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ
<https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/organizational-chart/organizational-office04.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職：株式会社顧問 (2019.6.25～2023.12.31) 現職：株式会社役員 (2016.5.30～現在に至る)	2023.4.1～ 2027.3.31	企業役員経験者として法人 全体の指導・助言
非常勤	前職：株式会社役員 (2020.6.25～2023.6.28) 現職：株式会社相談役 (2023.6.28～現在に至る)	2023.4.1～ 2027.3.31	企業役員経験者として法人 全体の指導・助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
IR・教育支援センターが中心となり、上記内容を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」を作成。令和5年11月21日付でこれに基づくシラバス作成の依頼を、各学部長宛に文書にて周知している。更には学部内でのシラバス点検・監査報告の提出を義務付けている。このような取り組みを経て、授業計画(シラバス)を作成し、本学のホームページ上で公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.kindai.ac.jp/for-students/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
前述の「シラバス記入上の留意事項」において、成績評価方法及び基準という項目にて成績評価の考え方をよい記入例・悪い記入例を示しながら、適切な評価方法を記載するよう周知し、学部内における点検・監査項目のひとつとしてチェックを行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価に関しては、学則第18条に基づき履修科目の成績評価を点数化し、秀・優・良・可の4段階評価で単位認定を行っている。59点以下の場合は不可となり、単位は認められない。成績評価ではないが、学生自身が学修の全体的な達成度合いを把握するために全学部でGPAを導入し、各学部の履修要項にて公表している。点数化された成績分布と併せ、成績が著しく悪い学生に関しては、面談等の適切な学修支援を行っている。

【GPAの算出方式】※小数点第3位は四捨五入し、表記は小数点第2位とする

$$\frac{\{(\text{履修科目の単位数}) \times (\text{履修科目のGP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

実 点	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点以下	不受験
成績評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP (グレードポイント)	4	3	2	1	0	0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/grade-evaluation/>
(参考) GPAについて：学部別の「履修要項」に記載（新入生に対して入学時に配付）

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

IR・教育支援センターにおいて、大学全体の卒業の認定に関する方針を継続的にモニタリングしており、各学部は大学全体の方針に基づき、学部学科等の卒業の認定方針を定期的に見直し、ホームページ等に外部公開している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

(大学全体) <https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/>
(学部学科等) <https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	近畿大学
設置者名	学校法人近畿大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/
財産目録	https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/
事業報告書	https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/
監事による監査報告(書)	https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人近畿大学事業計画 対象年度: 令和6年度)
公表方法: https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/
中長期計画(名称: 学校法人近畿大学中期計画 対象年度: 令和2年度～令和6年度)
公表方法: https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/self-inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/evaluation/juaa-r03/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。本学部では「実学教育」と「人格の陶冶」の融合をめざしており、「実学」は、必ずしも直接的な有用性を志向するだけでなく、その事柄の意味を学びとることを含みます。法学部の教育研究上の目的として、全学で定めるアドミッション・カリキュラム・ディプロマの法学部法律学科では、法律や政治に関する知識を学ぶだけではなく、複雑化する現代社会において、自ら問題点を見つけ解決策を提案できる“リーガルマインド”の養成を重視しています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/) (概要) 法学部は、法治社会が立ち向かう課題を発見・予測し、その要因と構造を調査・分析し、公共と秩序の観点からその解決のための方略・戦略を策定・構築する者として、下に掲げる水準に達したと認められる者に卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与します。 1. 〈認知的水準（知識）〉 人間・社会・自然に関する豊かな教養と政策・法に関する確かな専門知識に基づいて今日ある社会的課題を発見し、客観的に分析・考察できること。 2. 〈認知的水準（思考）〉 規律化された法治社会において確固たる法的思考（リーガル・マインド）に立脚した法的・政策的な戦略に基づいて今日の社会的課題を解決できること。 3. 〈認知的水準（予測）〉 規律化された法治社会を持続的に維持するために将来の課題を予測するとともに、これを縮減・予防する戦略を策定できること。 4. 〈情意的水準（規律）〉 課題を解決するために策定された方略及び戦略を公共・秩序に資するように規律にかなって執行できること。 5. 〈情意的水準（協調）〉 自らの言葉を他者に伝えるとともに他者の言葉を理解し、他者と協働して課題に取り組むことができること。 6. 〈情意的水準（統制）〉 課題の解決に向けて、法的思考と法的・政策的戦略に基づいて、自己ならびに他者を組織化し統制できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/)

（概要）

法学部は、学生が、法治社会における課題発見・解決ならびに紛争予防に必要な知識・能力を培うことができるように専門科目を段階的に配置するとともに、全人的に成長し法治社会・国際社会の一員として主体的・自律的に振る舞うための基盤となる教養・語学力を確かに身につけられるように共通教養科目・外国語科目を全学年に置いています。

＜共通教養科目＞

人文・社会・自然にわたる幅広い内容を学び、高い倫理観とグローバルな視点に立った教養を身につけます。初年次の少人数クラスでは、基本的なコミュニケーション能力、法的なものの見方や考え方を深めます。将来の進路を具体化するための一歩として、「進路・就職」についての明確な意識を育てます。

また、大学生として必要な「読む」「書く」「話す」能力を高め、他者とのコミュニケーションのスキルを磨く場として基礎ゼミを初年次教育の中核に据えています。これは少人数・演習科目であり、学生が授業参画を通じて主体的かつ自律的な態度を身につける絶好の機会にもなります。

＜外国語科目＞

法学部では、グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、語学教育に力を入れています。特に英語科目では、多くを必修科目として設定しており、専任教員を中心とした語学教員が指導する少人数授業によって、総合的な英語力を養成します。このため、外国人とのコミュニケーション、外国文化の理解ならびに外国企業との交渉の礎となる言語・文化・社会を学修できるように1学年から4学年まで全ての学年に英語科目を置いています。また、英語圏以外の地域における言語・文化・社会についての学修を支援するために、第2外国語科目としてイタリア語、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語の各科目を置いています。

＜専門科目＞

第1セメスターから第4セメスターまでに基幹科目を配置し、法学部生としてまず修得すべき知識を入学時点から体系的に学べるように配慮しています。これらの基幹科目によって培われた知識に基づいて展開科目を履修することによって、幅広い知識を体系的に学ぶことができます。展開科目は専攻プログラム・コースに合わせてパッケージ化されています。また、第5セメスター以上の学年では、主要科目の内容をより高度かつ専門的に学ぶ発展科目を履修することもできます。入学後もない全学生を対象にした初年次科目と、法律学科学生の主要な関心領域をカバーした4つのプログラム関連科目および2つのコース関連科目ならびに基礎ゼミも含めた演習科目は、法学部のカリキュラムの中核となるものです。

〈初年次科目〉

法学部学生として修得すべき基礎的知識を学ぶ基幹科目を1学年に置いて、全学生が履修することを義務づけており、いずれのプログラム・コースに所属したとしてもこれらの知識が有用となるよう配慮しています。基幹科目はさらに2学年にも配置しています。

〈プログラム関連科目〉

「犯罪・非行と法」「経済生活と法」「会計・税務と法」「まちづくりと法」の4プログラムを置いて、関連する科目をパッケージ化しています。これによって、学生は、自らの関心やキャリア意識に対応する科目を網羅的かつ体系的に学修することができます。さらに、「法曹」「行政」「国際」の3コースを置いてキャリアに直結する学修の支援体制も整えています。

〈演習科目〉

少人数クラスを用いた演習科目では、社会人に求められる基礎的素養を身につけるとともに、法学部生として不可欠な法的思考力（リーガルマインド）を培い、専門分野に関する知識や考え方を修得します。第3セメスター・第4セメスターの一般演習と第5セメスターからの専門演習が代表的な演習科目で、関心のある専門領域を選択し、ゼミナール形式で研究、発表を行います。この他、第1セメスターの基礎ゼミ（共通教養科目）も法学部の演習科目としては中核に位置づけられます。また、各コース所属学生を対象としたコース演習が、第4セメスター以降に開講されています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/law/>)

(概要)

法学部は、近畿大学建学の精神に則り、法学部の教育目的を実現するため、その教育方針に則って法学部の授業を学び、法治社会の構成員である主体的・自律的に振る舞うことのできる市民に成長して卒業していく学生を志すにふさわしいものとして、以下に掲げる法学部での履修に必要な基礎学力を有する入学生を求めています。

1. 社会の成り立ちと仕組みについて関心・知識を持ち、客観的に考察する意欲のある人。
2. 社会の課題を客観的に考え、解決の道筋を探る意欲のある人。
3. ものごとを論理的に考えることのできる人。
4. 規律を理解しこれに従って行動することのできる人。
5. 自然現象や環境について広く関心・知識を持つ人。
6. 社会の中で他者を思いやり、共に成長する意欲のある人。
7. 国際社会の一員として他国の文化を知りその人々と交流する意欲のある人。

このような人材として、法学部に入学するまでに、次の教科・科目の内容の理解や素養・知識を有していることが望まれます。

高等学校主要教科

社会を形成する市民として求められる教養

地歴・公民

1. 社会の成り立ち、仕組みや課題についての客観的・批判的な考察力
2. 公平・正義といった社会の指導的理念に基づいた論理的な思考力
3. 社会にある規律の理解と遵守

数学・理科

自然現象・環境についての客観的な観察ならびに論理的な思考力

国語

同じく社会に生きる他者への配慮と意思の疎通

英語

外国の人々・文化・社会に対する関心と交流

法学部の入学選考では、多元的な評価尺度による入学試験を行ない、冒頭に述べた法学部での履修に必要な基礎学力を具えた多様な人材を受け入れることを目指しています。

1. 大学入学共通テストを利用する入学選考においては高等学校主要教科を重視し、公募制推薦入試においては国語、英語、一般入試においては地歴・公民、数学、国語、英語に関する理解・知識等を測っています。
2. 指定校推薦、附属特別推薦やスポーツ推薦等の特別入試では、小論文や口頭試問等により上記の基礎学力を測っています。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 本学部は経済学科、国際経済学科、総合経済政策学科の3学科体制をとり、専門化・総合化・グローバル化に対応しています。これらの3学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。この経済学士こそ本学の 建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずです。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/) (概要) 近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、経済学部では高度な分析力を有し、人間が生きる上での基本となる経済活動と、そこから派生する様々な社会経済現象を通底する論理を的確に読み解き、現代社会を生き抜く力を持った人材を育成することを目指しています。この趣旨のもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、経済学科卒業生には、学士（経済学）、国際経済学科卒業生には、学士（国際経済学）、総合経済政策学科卒業生には、学士（経済政策学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。 1. 人間・社会・経済に対する幅広い関心と問題意識をもち続けていること。 2. 人間・社会・経済に対する幅広い教養を身につけているのと同時に、自らそれらの教養を拡充していく能力を身につけること。 3. 強靱な論理的思考能力と科学的分析力を身につけること。 4. 高度なコミュニケーション能力を身につけ、さらに自らの考えを的確に表現できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/) (概要) 経済学部は、現代経済と関連領域に関する幅広い視野を身につける一方で、深い専門性も同時に修得可能なカリキュラムを設置しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/economics/) (概要) 経済学部は、近畿大学建学の精神に則り、高度な分析力を有し、人間が生きる上での基本となる経済活動と、そこから派生する様々な社会経済現象を通底する論理を的確に読み解き、現代社会を生き抜く力を持った人材を育成します。このために、次のような入学者を受入れます。 1. 人間・社会・経済に対する強い関心を持つ人。 2. 日本語・外国語の読解力や論理的思考能力を中心とした基礎学力を有する人。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 経営学部は、企業や非営利組織体の運営と相互交渉が行われるビジネスの場における「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を総合的に扱う複合学部として、所属する学科・コースを超えて関心を寄せる授業科目を履修することを認めるとともに、他方、授業科目を基礎科目、情報科目、基幹科目、関連科目に細分することで、専門知識の習得に必要な科目を段階的かつ発展的に履修するという教育体制を採っています。また、教授内容に関しては、単なる座学に止まず、「学問・実地一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ及びキャリア実践プログラムを設けて、理論と実践の融合を図っています。さらに、ビジネス・エシックスに関連する授業科目を設置して、高い倫理観をもった人材の育成に努め、また、昼夜開講制を採ることで、月～金曜日の1時限から7時限までの授業を自由に履修できるようにして、多くの学修機会を提供するように配慮しています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/) (概要) 経営学部は、近畿大学の建学の精神及び教育の目的を実現するために、「ビジネスの中核を担う企画力と実行力をもつ有意な人材を育成する」という学部の教育理念を掲げています。学則に定める所定の期間在学し、教育理念に基づき設置した学科共通科目と学科固有科目を体系的に履修して基準となる単位数を修得し、必修である演習Ⅰ・Ⅱに合格することが学位授与の条件です。合格した者には、学士（経営学）、学士（商学）、学士（会計学）、学士（キャリア・マネジメント学）の学位を授与します。学位授与に至るまでに修得すべき資質・能力は次の通りです。 1. 企業経営に関する知識や情報を活用し、健全かつ効率的な経営管理を実現するための技能を培っていること。 2. ビジネスに関する戦略的な意思決定能力の基礎を形成し、市場における新たな価値を創造できること。 3. 国際的視野のもとで異文化を理解し社会に貢献できる使命感に目覚めていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/) (概要) 経営学部は、学部の教育理念である「ビジネスの中核を担う企画力と実行力をもつ有為な人材を育成する」ことを実現するため、次のようなカリキュラムを設置しています。 ＜共通教養科目＞ 初年次教育では、経営学部の学びに対応できるよう、社会現象を分析し、課題を発見し、問題を解決するための能力を育成し、練磨することを目的とした科目を体系的に配置しています。また、社会倫理の探求と社会正義の実現を目指すと同時に、国際社会での活躍に必須の異文化理解とコミュニケーション力の養成に努めます。さらに、社会生活の基盤となる心身の健康についての正しい理解と活力ある生活を実践できる能力を培い、豊かな人間性を育みます。 ＜外国語科目＞ 学生のキャリア選択の多様性を高めるとともに論理的思考能力を養成するために外国語の教育に力を入れています。中でも、グローバル化時代の共通言語とも言える英語科目の授

業では、国際化に対応し得る正確な英語の伝達技法の習得を主目的とし、英語による意見の発信力と様々な場面での交渉力を備えた人材養成を目指す授業を展開しています。また、英語以外にも、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語を学ぶ機会を提供し、基本が確実に身につく基幹科目と、そこで学修した知識を実用レベルまで高める発展科目を設けています。語学の学修を通して論理的思考力を磨き、国際的な活動をするために必要となる高度な知識と教養を獲得し、世界の諸地域に関する理解を深める教育を行います。

＜専門科目＞

経営学部では、ディプロマ・ポリシーにある「企業経営に関する知識や情報を活用し、健全かつ効率的な経営管理を実現するための技能」と「ビジネスに関する戦略的な意思決定能力の基礎を形成し、市場における新たな価値を創造」する能力を育成するため、基礎科目、情報科目、基幹科目、総合科目などによる段階的な教育プログラムを開講しています。まず、1・2年次において、学部共通の基礎科目と情報科目を配置し、各学科の専門科目の応用学修へ繋がる基礎知識の修得と情報技術リテラシーの養成を行っています。これを踏まえて2年次から4年次へかけてより高度な基幹科目を設置し、各学科の特色を反映したコース制やインテンシブ・インターナショナル・プログラム（IIP）を実施しています。さらに、総合科目のゼミナール（演習）では専門知識の実践力を高めています。

＜自由科目＞

教職課程、インターンシップ、その他特設科目を設け、それを自由科目として認定し、他の科目群を補完する教育として効果を高めています。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/business/>）

（概要）

経営学部は、近畿大学建学の精神に則り、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を持つ有為な人材を育成します。このために、次のような人を幅広く受入れます。

1. 未知の領域に挑戦し、知識や技能をビジネスに活かす高い意欲を持つ人。
2. 学びへの努力を惜しまず、社会へ貢献することを自分の喜びとして行動できる人。
3. 活躍の場を広く求め、コミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む人。

また、経営学部に入学者までに、次の教科の内容を理解し、身につけていることが望まれます。

国語

基礎的な日本語の読解力、論理的な思考に基づいた表現力

外国語

基礎的な語彙と構文を用いて比較的簡単な情報を理解し、考えを表現できる能力

地歴・公民

地理・歴史の観点から社会を理解する基礎的知識と社会の仕組みに対応していくための分析能力

数学

物事を数学的に捉えて、考える能力

理科

自然現象を観察する科学的態度と探求心

特別活動

自主的で協調的な態度と奉仕の心

経営学部は一般公募推薦入試において、国語、外国語を入試科目とすることで、日本語・外国語の読解力や論理的な思考力を有する学生を求めています。さらに、一般入試において、国語、外国語に加えて数学または地歴・公民を入試選択科目とすることで、日本語・外国語の読解力や論理的な思考力だけでなく、物事を数学的に捉えて考える能力、社会を理解する基礎的知識と社会の仕組みに対応していくための分析能力を有する学生を求めています。

学部等名 理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/) (概要) 理工学部では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「創造性豊かな人材の育成」を目的として、「幅広い教養と総合的判断力」を養うとともに、「科学技術を通じて社会に貢献し、社会をリードする能力」と「豊かな人間性」も養う教育カリキュラムを運営し、厳格な成績評価を行っています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/) (概要) 理工学部では、「創造性豊かな人材」を育成するためには「学ぶ意欲、学ぶ習慣、自律的に考え判断する能力、課題解決のために行動・チャレンジできる教養」を身につけさせることが必要であると考え、ディプロマ・ポリシーの実現のために、「共通教養科目群」「外国語科目群」「学部基礎科目群」「専門科目群」のカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/science-engineering/) (概要) 理工学部は、近畿大学建学の精神に則り、実学教育のもとに社会で求められる創造性豊かな人材を育成します。このため学部教育での到達目標として、ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラムを提供し、国際化に対応できる学問的素養、的確な判断力、社会をリードできる能力の伸長を重視します。従って、各学科への適性を兼ね備えた基礎学力を持つ人材はもちろんのこと、基礎学力のみにとらわれず社会のニーズ変化に即した多種多様な能力を持つ人材も併せて受け入れます。

学部等名 建築学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 本学の学則に掲げており、建築学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として、つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成することと、教育と研究の両側面から目的を記載し、ホームページで公開している。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/)
(概要) 建築学部では、卒業までに身につけるべき知識・能力として、幅広い知識と深い洞察力を培い、コミュニケーション能力とグローバルな視点を持ち、柔軟な思考・発想で国際化社会に貢献できること、「建築図面を読み描きする能力」を身につけ、都市や建築を形成していく広範なデザイン能力を修得すること、「つくり・守り・育てる」建築学を理解し、幅広い建築関連分野で活躍できる専門知識・技術を修得すること、社会の課題や問題を、建築学の専門知識・技術にもとづき高い倫理観をもって創造的に解決する能力を身につけることを掲げ、ホームページで公開している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/)
(概要) 従来の「つくる」ことを主たる目的とした建築学に加えて、「守り・育てる」建築学を幅広く身につけるために、共通教養科目、外国語科目、専門科目によって、カリキュラムが構成されており、共通教養科目と外国語科目では、ディプロマ・ポリシーにある「1. 幅広い知識と深い洞察力を培い、コミュニケーション能力とグローバルな視点を持ち、柔軟な思考・発想で国際化社会に貢献できること。」の能力の育成をおこなう。専門科目では、ディプロマ・ポリシーにある「2. 『建築図面を読み描きする能力』を身につけ、都市や建築を形成していく広範なデザイン能力を修得すること。」、「3. 『つくり・守り・育てる』建築学を理解し、幅広い建築関連分野で活躍できる専門知識・技術を修得すること。」、「4. 社会の課題や問題を、建築学の専門知識・技術にもとづき高い倫理観をもって創造的に解決する能力を身につけること。」の能力の育成をおこなうことについて、ホームページで公開している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/architecture/)
(概要) 建築学部では、近畿大学建学の精神に則り、従来の「つくる」ことを主たる目的とした建築学に加え、「守り・育てる」建築学を学ぶ場を提供し、実学教育によって、現代社会の課題を読み解き、その課題解決に貢献する新しい建築を創造する人材を育成することを掲げている。建築関連分野に対して幅広い興味・関心を持つ人、建築学の修得に必要な基礎学力を修得している人、社会における互いの多様な価値観を理解し、これらを尊重することのできる倫理観を持つ人、地域環境・地球環境との共生の大切さを理解し、社会に貢献できる新たな技術を創造しようとするチャレンジ精神を持つ人材を受け入れることについて、ホームページで公開している。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/)
(概要) 薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育と人格の陶冶」に則り、『21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成する とともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕すること』を理念としています。 これを実現するために、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバル に活躍できる人材を育成します。
卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/>)

(概要)

薬学部では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」及び「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）あるいは学士（薬科学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/>)

(概要)

薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、医薬品の開発などに貢献できる人材を養成するために、医療薬学科では最先端の薬物治療や臨床薬学等に関する科目を、創薬科学科ではレギュラトリーサイエンスやゲノム科学等に関する特色ある科目を設置しています。

＜共通教養科目＞

医療人に求められる高い倫理観と使命感を醸成するための人文・社会系の科目とともに、専門科目の理解に必要な基礎学力を養う自然科学系の科目を提供します。また、「基礎ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、協働的に学修することで解決し、成果を発表すると共に、ルーブリック評価を取り入れて能動的な学修姿勢を醸成します。幅広い教養系科目を通して、専門科目の学修に対するモチベーションを高めます。

＜外国語科目＞

最先端の医療や薬物治療に関する情報の多くは、外国語の論文として報告されています。また、医薬品開発や製薬業界のグローバル化が進展する中で、グローバルに活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による少人数制の語学教育プログラムを導入し、外国語を継続的に修得できる科目を開講しています。さらに、英語圏以外の地域における言語・文化・社会を学修できるように、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語を開講しています。

＜専門科目＞

医療薬学科では、基礎薬学、衛生薬学や社会薬学に加え、最先端の医療薬学に関する講義、演習、実習を開講しています。臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、遺伝子治療や再生医療などに関係した最先端医療系科目を導入しています。また、倫理観や責任感を身につけるために、早期体験学習では病院における看護体験を、医薬合同学習ではチーム医療の基礎を学ぶため医学部の学生と小グループでのディスカッション・発表する機会を設けています。

創薬科学科では、医薬品開発を始め、食品薬学や香粧品に関する基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するための科目に加え、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬やin silico 分子設計学など最先端の講義と実習も導入しています。また、プレゼンテーションや実践的な外国語を修得することができる科目を置いています。

各専門科目の評価には、知識を確認するための試験やレポートに加え、技能・態度はルーブリックにより評価されます。

＜実習・演習科目＞

課題発見・問題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけるため、両学科共に1年の情報科学実習から3年間にわたる実習科

目を設定しています。また、3年から開始される長期にわたる卒業研究を通して、問題発見能力・課題解決能力を養うことのできるカリキュラムとしており、ルーブリック評価と発表会のプロダクト、プレゼンテーション及び質疑応答を複数の専任教員で評価しています。医療薬学科では、4年次以降に実務実習事前学習や病院と薬局における臨床薬学実習において、地域医療、チーム医療及び最先端の薬物治療に関する知識、技能及び態度を身につけることができます。創薬科学科では、グローバルに活躍できる人材を育成するため、プレゼンテーション能力や英語力の向上を目指した演習も開講しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/>)

(概要)

薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、『21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕すること』を理念としています。これを実現するために、本学部の理念に共感する次のような資質を有する入学者を国内外から広く受入れ、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成します。

また、求める資質として、将来薬剤師として、あるいは創薬研究・開発に携わる研究者、技術者として医療や創薬の分野で社会に貢献したいという強い意欲を持つ人、医療の発展に貢献しようとする意欲のある人、最先端の薬学研究に取り組む意欲のある人など5項目を挙げている。

また、薬学部の入学試験では、学力試験の他、薬学部教員による口頭試問・高校時の学業成績などにより上記の資質を有する多様な人材を選抜しており、薬学部に入學するまでに国語、英語、数学、理科、地歴公民において理解していることが望まれる内容について記載している。

学部等名 文芸学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/>)

(概要)

本学部は、文学科（日本文学専攻、英語英米文学専攻）、文化・歴史学科、芸術学科（舞台芸術専攻、造形芸術専攻）、文化デザイン学科の4学科4専攻で構成され、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」という建学の精神をふまえたうえで、それは、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命（いのち）を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを、共通理念として根底に置いた教育の場を実現することであり、この理念は、文芸学部を創設した平成元年以来一貫して保持されてきました。文芸学部は、現在そして未来に向けて、その実現を教育研究の目的とし、その目的を体現する人材の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul/>)

(概要)

本学は、「建学の精神」、「教育の目的」に基づいて、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とすることをディプロマ・ポリシーとしており、文芸学部ではこれを旨として、文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。この育成方針に則り、厳格な成績評価によって所定の単位の修得が認められた学生に卒業を認定し、学士(文学、文芸学)を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul) (概要) 個人および社会の自由と幸福を追求するために、教養、判断力、趣味、共感能力を高め、さらに文化領域について深く学び、考え、実践することで、思考力、美的感性、創造力、批評精神を涵養します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/lit-art-cul) (概要) 文芸学部は、近畿大学の「建学の精神」、「教育の目的」に則り、それにふさわしい人材を育成するため、以下のような意欲と能力を持つ人を入学者として受入れます。選抜の方法は、学科専攻のアドミッション・ポリシーに則り、筆記試験と実技試験、口頭試問等によって、文芸学部で学ぶ意欲と能力を判定します。文芸学部では、文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。
学部等名 総合社会学部 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 大学の学則に掲げており、総合社会学部では大学全体の方針に基づき、理念と目的として、多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により、複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組むことを目的として、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/) (概要) 総合社会学部では大学全体の方針に基づき、専門分野について基礎的な知識を身につけ、日本語や外国語を用いてプレゼンテーション、コミュニケーションを図ることができ、社会問題の解決や生活の質的向上のため、生涯を通じて学習し、自律的に行動できる資質・能力を身につけるために、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことで、複雑化する社会問題を同定し、問題の解決や、よりよい社会の構築に対して提案できるような人材の育成を教育の到達目標としており、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/)

(概要) 総合社会学部では大学全体の方針に基づき、「共通教養科目」「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」により本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保している。4年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を行い、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え、問題解決を図る能力を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/sociology/)
(概要) 総合社会学部では大学全体の方針に基づき、大学での学びに展開できる確かな基礎学力を持ち、様々な社会問題や人間行動・新たな社会のあり方について関心を持ち、自律的に課題を見出し、論理的・科学的に考えるための素地がある人を入学受入れ方針として掲げている。また、高校までの科目履修等によって、論理的・構造的に思考するための読解力・表現力、データ等を用いて論理的・客観的に思考できる基礎的素養を身につけ、日本及び世界の情勢や地域特性について総合的に理解し、基礎的な技能（読解能力、作文能力と会話能力）と語彙力が身につけていることが望まれる。
学部等名 国際学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/)
(概要) 国際学部では、本学の学則に掲げているとおり、大学全体の方針に基づき、外国語による高いコミュニケーション能力を有し、幅広い教養と専門性を備え、自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」を育成し、グローバル社会に活躍できる人材の輩出を目的とする。 この内容は、本学の学則に掲げており、大学のホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/)
(概要) 厳格な成績評価によってカリキュラムを運営し、所定の単位を修得し、留学と多彩な科目の学修を通して、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性を身につけ、異なる文化や社会の架け橋となる高いコミュニケーション能力を修得した学生に卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/)
(概要) 国際学部の全体的カリキュラムを基盤として、ディプロマポリシーに適う資質、能力を育成するため、留学前・留学中・留学後に提供する教育を有機的に連携させることを目的に、共通教養科目、外国語科目、学部共通科目、言語科目、留学科目、専門基礎・専門発展科目の科目群で教育課程を編成している。また、3年次からグローバル専攻は、「コミュニケーション・実践」、「言語文化」、「国際関係」、「人文社会」の4つの領域に分かれ各自の専門知識を深化させ、東アジア専攻は、中国、台湾、韓国の地域、文化、言語などについて、基礎から応用へと順を追って専門知識を身につけられるようカリキュラムを編成している。
入学者の受入れに関する方針

(公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/international-studies/) (概要) 国際学部では、「国際教養人」を育成するため、入学までに身につけていることが望まれる能力をアドミッションポリシーに定め、そうした素養を持った入学者を受け入れている。また、アドミッションポリシーに即し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者等を対象にした総合型選抜（A0 入試）の他、公募推薦入試（学校推薦型選抜）や一般入試において、国際学部独自方式の入学選抜を設けている。

学部等名 情報学部 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 情報学部では、本学の学則に掲げているとおり、大学全体の方針に基づき、Society5.0の実現に向けて第4次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI等）が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を育成することを教育理念・目標とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/informatics/) (概要) 情報学部では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、広い視野から問題の核心を的確に把握する洞察力、技術的な課題を解決する専門能力、進歩を続ける情報技術に対応できる柔軟な思考力と創造力を持ち、社会の一員としての責任と自覚を有する情報技術者の育成を目標としています。4年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身につけた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/informatics/) (概要) 情報学部では教育方針に沿って、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力に対応した到達目標を設定し、それぞれの目標達成に適した、共通教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目の科目群にまとめられるカリキュラムを設定しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/informatics/) (概要) 情報学部では、国際的に通用する高度な学問的素養を持ち、豊かな社会の実現に貢献し、社会的責任を有する自立した技術者の育成を目指しています。このため学部教育での到達目標として、ディプロマ・ポリシーを達成できるようなカリキュラムを提供しており、情報学への適性を兼ね備えた基礎学力を持つ人物はもちろんのこと、基礎学力のみにとらわれず社会のニーズ変化に即した多種多様な能力を持つ人物も併せて受け入れます。具体的

には、カリキュラム・ポリシーに従った教育課程に十分従事でき、ディプロマ・ポリシーを達成できることが期待される、下記のような人物が入学することを期待しています。

1. 技術と人間、社会、文化の関わりについての基礎的な洞察力を持つ人。
2. 技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人。
3. 知的好奇心があり、情報技術をベースとする工業製品あるいは社会システムへの応用に強い関心を持つ人。

また、情報学部に入學するまでに、次のような教科の内容を理解し、それらに即した記載の能力を持っていることが望まれます。

数学

数学的公理や定理を活用した推論能力、論理的思考力。

理科

自然現象を数式や化学式でモデル化する能力。

外国語

文法に則って英文の文意を正確に理解する能力。

国語

日本語の基礎的な読解力、及び論理的な記述力。

学部等名 農学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/>)

(概要)

本学の学則に掲げており、農学部では大学全体の方針に基づき、社会を支える高い志をもつ学生を社会に送り出すことが、本学部が目指す社会的使命とし、ホームページで公開している。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/>)

(概要)

本学の「建学の精神」と「教育の目的」に基づき、農学部の教育理念として『チャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材の育成』を掲げています。この農学部の教育理念および農学部各学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（農学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1. 多様な全学共通カリキュラムや各学科における体系的学修を通して、幅広い教養としての学問とともに農学に対する深い関心や学修能力、学修意欲を養っていること。（DP1）
2. 学部での4年間の「講義」「演習」「実験・実習」の学修や、卒業研究等を通して、主体性のある自己として知識を活用する能力および論理的な思考力を身につけていること。また、科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解するとともに、社会に対して負っている責任を認識し、正しく判断できること。（DP2）
3. 母国語での論理的な思考力、記述力、口頭発表力、表現力、討議等のコミュニケーション能力とともに、国際的にも通用するコミュニケーション基礎能力を身につけていること。（DP3）

4. 各学科における体系的学修を通して、農学分野における幅広い知識を修得するとともに、現代社会が内包する多様な課題、特に食料・環境・生命・健康・エネルギーに関連する分野での問題点を抽出・分析し、グローバルな視点で解決する能力を身につけていること。
(DP4)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/>)

(概要)

農学部の特徴である食料、環境、生命、健康、エネルギーというキーワードを中心におき、以下のようなカリキュラムを設置しています。これらのカリキュラムは継続性や連続性、順次性を考慮したカリキュラムツリーに従って配置されています。なお、これらの学修科目の達成度合いは、シラバスに記載の評価方法（ループリック、授業中課題、小テスト、定期試験、レポート、プレゼンテーション等）に従って点数化して評価し、授業期間終了後に本人及び保護者に通知します。

<共通教養科目>

複数の学部専任教員が少人数クラスとして担当する「基礎ゼミ」を履修することで、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などが養成されます。また、初年次が開講される「キャリアデザイン」「キャリアデベロップメント」による主体的な学びを通して、大学生活での目標と行動計画の策定を支援します。さらに、ディプロマ・ポリシー1、2、4に則り、生物生産、食料供給、健康増進および環境保全に携わる者として必要な幅広い教養や責任感、倫理観を身につけるための授業を提供します。

<外国語科目>

ディプロマ・ポリシー3に則り、グローバルな視点で国際分野でも活躍できるように、外国語科目を設定しています。これらの科目を履修することで、外国語運用能力が養成されます。特に、英語力の向上を教育の重要事項の一つと位置付け、「English Communication」「Academic English」「English Special Studies」などを開講し、ネイティブスピーカーによる少人数クラスでの授業を通して英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、ビジネス英語、アカデミック英語など、学生の希望進路に即した英語教育プログラムを提供します。

<専門基礎科目>

農学部の学生としての基礎教養の向上を図るために「数学」「環境教育学」「世界の食糧生産」「里山学」「自然色彩学」「生態学基礎」「食生活と健康」「基礎土壌学」を開講し、専門教育と教養教育の融合を図ります。

<専門科目>

主にディプロマ・ポリシー2と4に則り、学科の専門性を広く展開し、また、企業からの非常勤講師の招聘や工場見学などを通して、実社会で通用するような学力と思考力の修得をめざして専門科目を配置しています。また、実験・実習科目を設け、生きた実学教育の充実を図ります。学修成果の集大成として、ディプロマ・ポリシー1～4のすべてに則った学修成果の達成のために、必修科目の卒業研究を配置しています（食品栄養学科では選択科目）。卒業研究の達成度合いは、ループリックに規定された項目によって複数教員により定量的に評価し、卒業時に通知します。食品栄養学科では、すべての学修の総まとめとして必修科目の「特別講義」を配置しています。このほかにも、学部・学科の特色を生かし、教員、学芸員などの資格取得のための教育プログラムを展開します（これらは卒業認定単位には含まれません）。さらに、インターンシップ制度、ボランティア制度、留学制度を設け、社会や世界との接点をもてるような教育を提供します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/agriculture/>)

(概要) 農学部では、近畿大学建学の精神に基づき、地球環境と生命現象に興味を持ち、暮らしに役立つ未来の技術を開拓し、グローバルな視野を持って社会に貢献しようとする人材を育成します。そして、学部の教育理念「積極的なチャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材を育成する」に基づき、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術を修得し、豊かな倫理性・人間性を兼ね備えた実践的な人材を育成します。 このため、カリキュラム・ポリシーに示す教育プログラムを学修するために必要な適性を有する学生として、次のような入学者を受け入れます。 1. 農学部での履修に必要な基礎学力を持ち、学修意欲の高い人。 2. 自然科学に対して強い知的関心を持つことのできる人。 3. 自分の行動に責任を持ち、福祉や科学倫理、科学技術への理解を深めることができる人。 4. 将来の目標を定め、目的意識を持って学修に取り組む人。 また、農学部に入学者になるまでに次のような教科の内容を理解し、身につけていることが望まれます。 1. 国語 読解力、表現力、作文力 2. 外国語 英語の語彙力、基礎的な読解力、表現力、作文力 3. 理科 化学、生物、物理に関する基礎的な知識 4. 数学 基礎的な計算力と論理的な思考力 5. 特別活動 自主的、協調的な態度と奉仕の精神、社会情勢への関心と対応力 農学部は、多様な学生の受け入れのため、推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用方式、大学入学共通テスト併用方式、外国人留学生入試、編入学試験の6つの方法で入学者の選抜を行います。推薦入試では、一般公募推薦入試に加え、指定校推薦入試と専門高校・専門学科・総合学科等を対象とする推薦入試を実施しています。 一般公募推薦入試以外の推薦入試、外国人留学生入試、編入学試験では、個別面接試験を課し、幅広い分野から多様な能力を有した学生を求めます。 一般公募推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト併用方式では、近畿大学の個別学力試験を課しています。また、大学入学共通テスト利用方式、大学入学共通テスト併用方式では、大学入学共通テストを課しています。 これらの入試では、高い基礎学力を有した学生を求めます。
--

学部等名 医学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 医学部では、本学の学則に掲げているとおり、大学全体の方針に基づき、「人間性豊かで知識、技能に優れた医師を育成します。さらに研究や診療を通じ、医学の進歩に貢献し、豊かで健康な社会の創生に寄与する」ことを理念・目的とし、ホームページに公開している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/)

(概要) 本学では「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志を持ち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すこと」を最終教育目標としています。医学部では、これに基づき、広い学問的視野・知識・技能・継続的な学修姿勢とともに奉仕の心と高い倫理観を有し、国内外の医療・保健・福祉に貢献できる「人に愛され、信頼され、尊敬される医師」を育成します。 6年間にわたる全教育課程を修了し、以下の資質・能力を身につけた学生に学士（医学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/)
(概要) ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、医学部では6年一貫型の学修成果（アウトカム）基盤型教育を実施しており、その実践のためのカリキュラムを編成しています。本カリキュラムでは、教育アウトカムに関連づけられた内容を繰り返し学び、その到達度が徐々に向上するよう、各科目が順序性に基づいて配置されています。各科目を、基礎医学や社会医学と臨床医学を統合しながら学びます。また、症候・病態を共有する臨床医学が統合され、教育されます。カリキュラムには、Problem-based learning (PBL) テュートリアル、Team-based learning (TBL) などの能動的学修を積極的に取り入れ、自律的学修能力、論理的思考能力、問題解決能力、科学的探究心の養成に力を入れています。また、入学後から段階的かつ継続的に医の倫理とプロフェッショナリズム、行動科学を学修し、患者・生活者の総合的理解や国内、国外における医療の社会性を理解など、医師としての高い資質を養います。さらに、低学年から地域医療・保健の現場を体験し、実際の診療への参画を深めながら臨床実習へと段階的に進むカリキュラム構成となっています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/medicine/)
(概要) 医学部は、近畿大学建学の精神に則り、「実学教育」と「人格の陶冶」を目指します。また教育の目的に則り、「人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師」の育成に努めます。本学の「建学の精神」と「教育の目的」に共感し、将来、良き医師として社会に貢献することを志望する下記の資質・能力をもつ入学者を受入れます。 1. 医学を志し、そのために必要な強い意思と高い理想を持つ人。 2. 医学の課程を学ぶために十分な基礎学力と継続的学修姿勢を備える人。 3. 自ら課題を発見し、解決していく意欲にあふれる人。 4. 奉仕の精神と協調精神に富む人。 5. 倫理観と責任感に富む人。 6. 医療を通じて地域社会、国際社会に貢献する意欲のある人。 また、医学部に入学するまでに、医学学修の基礎となる以下の教科についての履修と十分な知識・理解・修得を望みます。 国語 専門教科書レベルの読解力、及び標準以上の表現力、発表力、論理的思考力など

外国語 専門教科書レベルの読解力、及び基本的な文章力と会話力 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 物理 物理基礎・物理 化学 化学基礎・化学 生物 生物基礎・生物 地歴・公民 個人と社会を取り巻く様々な状況を理解し、的確に対応するために必要な知識と教養

学部等名 生物理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 生物理工学部では本学の学則に掲げているとおり、大学全体の方針に基づき、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材を育成することを掲げ、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/) (概要) 生物理工学部は、生命科学と理工学の学際的な学術分野の教育研究を通じて、地域社会ならびに国際社会と連携して人類社会の福祉と持続可能な発展に寄与できる人材の育成を目指しています。生物理工学部では、所定の期間在学し、所属学科の卒業所要単位表に記載の全ての要件を満たしている学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/) (概要) 生物理工学部は、21世紀の社会が直面する「食糧」、「医療・福祉」、「人間生活の環境」における学際的分野の課題を自ら発見し解決できる人材を育成するためアクティブラーニングを含めた以下のようなカリキュラムを提供しています。特に、専門科目では、社会のニーズに対応できる豊かな教養に裏打ちされた専門性を高める教育プログラムを、各学科の人材育成目標に沿って提供します。実験・実習・演習を重視し、産学連携を推進し、生きた実学教育を実施します。また、学科の枠を超えた学際領域選択科目を設け、学際的な学術分野の専門知識を深めます。さらに、学科毎に研究室に所属して行う卒業研究では、教員や大学院生との深い相互討論によって、基礎的あるいは最先端の研究を体験し、専門知識の深化と専門技術の修得を図ります。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/bost/) (概要) 生物理工学部は、近畿大学建学の精神に則り、生命科学と理工学の学際的分野で、系統的な基礎科目の教育と学科毎に高度な専門教育を実施して、社会に貢献できる多様性を持つ優れた人材を育成します。このために、次のような入学者を広く受入れます。 1. 各学科での履修に必要な基礎学力を十分に有している人。 2. 自然科学と最先端の科学技術に広く関心を持つ人。 3. 将来の目標を定め、強い意志を持って勉学を志す人。 4. 能動的に学ぶ姿勢を有している人。 5. 幅広い視点から論理的に課題を解決していく意欲にあふれる人。 6. 高い倫理観を持って謙虚な姿勢で社会に貢献しようとする人。 7. 他者との関わりを大切に、コミュニケーション能力を高め、社会に飛躍しようとする人。
学部等名 工学部 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/) (概要) 本学の学則に掲げているとおり、工学部では大学全体の建学の精神と教育の目的の方針に基づき、グローバル化が進む高度情報化社会の時代の要請に応えるべく、人間性、専門性、国際性を備えた持続可能な社会を実現できる技術者・研究者を育成することを理念目的として掲げ、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/) (概要) 工学部では、人間性、専門性、国際性を備えた技術者・研究者を育成するため、具体的に明示された評価方法に基づき厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得することに加えて、卒業までに高い人格と倫理観を培うこと、持続可能な社会を目指すための課題発見・分析・解決能力を身につけること、表現力、論理的思考力、コミュニケーション能力や幅広い知識を活用して国際視点に立って行動する能力を身につけることを身につけるべき資質として掲げ、ホームページで公開している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/) (概要) 工学部では、人間性、専門性、国際性を備えた技術者・研究者を育成するため、総合科目にて、人間尊重と公共性の意識、国際的感覚や、論理的思考力と課題設定・問題解決力、自己表現力を育成し、豊かな教養と人間性を涵養し、外国語科目にて、系統的に配置された科目により、実践的な語学力、異文化への関心、国際的視野を育成し、専門科目にて、分野及びレベル毎に階層化した科目により、幅広く応用可能な専門能力を身につける。また、創成的な卒業研究等からエンジニアデザイン能力を身につけ、さらには産学連携研究等を通して、実践的な専門性を育成することを掲げ、ホームページで公開している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/engineering/)

(概要) 工学部では、近畿大学建学の精神に則り、持続可能な社会を築くために必要となる高い人格と多様な価値観を理解・尊重できる倫理観（人間性）、旺盛な学習意欲により身につけられた専門能力（専門性）及び国際化時代を生き抜く力（国際性）を実学教育のもとに技術者・研究者を育成することを掲げ、ホームページで公開している。
--

学部等名 産業理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/)
(概要) 近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から人間主義の工学“（Humanity-Oriented Science and Engineering）”の実践を目指し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成することを教育理念としています。このため、本学建学の精神である実学教育のもと、技術に偏重せず 21 世紀が求める文理シナジー的発想とコミュニケーション力を持ったフロンティア人材を育成することを目的にしています。 実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では教養・基礎教育部門の共通教養科目として人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他にインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目については英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行っています。 産業理工学部は、21 世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/)
(概要) 産業理工学部では、近畿大学建学の精神と教育の目的に即して、文理協働の発想に根ざした高いコミュニケーション力と、自ら課題を発見し解決策を見出していく能力を持った「フロンティア人材」を世に送り出すことを目的としています。生物環境化学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科および情報学科の各学科では、所定の課程を修め以下に示す学修成果を上げた者に学士（工学）の学位を授与します。 1. 自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想を志向し、多様性を尊重しつつ高い倫理観を持って、地域や国際交流の発展に貢献しようとする態度を身に付けていること。 2. 各専門分野の原理・法則に基づいた論理的な思考力と、実験や作品の制作・情報の収集解析に必要な技能を身に付けていること。また、それらを問題の発見や解決・創作に利用できる能力と、建設的な議論ができるコミュニケーション力を身に付けていること。 3. 問題とその解決策について主体的に思考・判断し、人々と協調して解決に向けて取組める力を身に付けていること。 また、経営ビジネス学科では、所定の課程を修め以下に示す学修成果を上げた者に学士（経営ビジネス学）の学位を授与します。 1. 社会経済に関心を持ち、新しい専門知識を自ら学び、社会活動に取り組む意欲を持っていること。 2. 企業その他組織に関する知識や情報を活用し、大局的かつ戦略的な思考ができること。

3. マネジメントに関する幅広い知識を応用し、社会の課題を自ら発見し解決する能力を身に付けていること。
4. 企業その他組織の運営に必要な知識、および社会経済や国際化の動向を把握できる知識を持ち、それらの視点に立った行動ができること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/>)

(概要)

1. 教育課程編成方針

産業理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる 3 つの大きな能力を身に付けた「フロンティア人材」を育成するため、共通教養科目、外国語科目、そして学科別に設定された専門科目からなる教育プログラムを開講しています。

2. 学修内容・方法

<共通教養科目>

社会の多様性を尊重し、コミュニケーション力と論理的な思考力を身に付けるため、次の 4 つの科目群からなる共通教養科目をおもに 1～2 年次において学修します。とくに 1 年次においては、課題設定・問題解決科目群に設定された少人数科目を中心に、能動的で自律的な学修態度への転換を図り、専門教育にスムーズに移行できるように配慮しています。

1. 人間性・社会性科目群
2. 地域性・国際性科目群
3. 課題設定・問題解決科目群
4. スポーツ・表現活動科目群

人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、および外国語科目では、人文科学と社会科学の学問領域に触れつつ、それらの基本的な知識や科学的な思考方法の修得することができます。また、社会人にふさわしい倫理観の涵養を図るとともに、地域や国際交流の発展に貢献しようとする態度を身に付けます。

課題設定・問題解決科目群では、大学生に求められる「読解力」、「論理的記述力」、「批判的分析力」を向上させ、とくに「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」等の少人数科目では、客観的な記述とディスカッションの実践を通じて論理的思考とコミュニケーション力、プレゼンテーション力の基盤を形成することができます。また、デジタル化社会に対応するための基礎的な能力に加え、将来を見据えて主体的・自律的に学ぶ姿勢と、キャリアパスを具体化する意識と行動力の基盤を育成します。

スポーツ・表現活動科目群では、文理融合科目を中心に身の回りの現象・問題に目を向けて、考察し解決する力を身に付けます。

<外国語科目>

外国語科目では、異文化を正しく理解し尊重する態度を育み、グローバル社会に対応するための基礎的な能力を身に付けます。すなわち、他言語の人々の考えを正しく理解し自分の考えを的確に伝えるための言語能力とコミュニケーションスキルを修得します。

<専門科目>

専門科目は、学科別に分野や学修内容に応じてより細かな科目群に分かれて、講義・演習・ゼミナール・実験・実習等の様々な方法・形態で実施されます。

1 年次においては、共通教養科目とともに専門基礎科目によって幅広い教養や専門分野の基盤となる知識や技能を修得します。

2 年次から 3 年次においては、理系 4 学科では各専門分野に関する原理・法則、実験・製作、情報の収集・解析等の技術を学修します。それとともに、技術者・研究者としての倫

理観も身に付けます。また、経営ビジネス学科では経営学・商学、会計・財務、社会・工学、グローバル、コミュニケーションといった各分野の発展的内容を学び、経営学、会計学、マーケティング論についての知識のほか地域社会やグローバル社会における諸課題の解決法を身に付けます。加えて、会社組織の起業と経営、地域のマネジメントやコーディネートに携わるうえで大事な倫理観を身に付けます。

4年次においては、3年次までに修得した知識・技能を問題の発見や解決・創作に利用できる能力、問題点を論理的に理解しその解決策を多面的な見地から思考する力、および建設的な議論ができるコミュニケーション力を修得するために卒業論文・研究に取り組みます。また、経営ビジネス学科では、経営学を始めとする各専門分野に関する高度な知識を修得すると同時に、論理的思考力、データ分析力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、研究計画力、協調性を身に付けます。

専門科目の到達目標等については、各学科のカリキュラム・ポリシーに掲げています。

3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーで掲げる各能力の到達に関しては、講義・演習科目では筆記試験やレポートにより評価します。実験・実習形式で行われる科目については、実技試験やレポート、作品等により評価します。コミュニケーション力や表現力の育成を目的とする科目では、プレゼンテーションやディベートによる評価を重視します。到達度は点数化の上、各セメスター終了時に個人宛に通知します。また、資格の取得や外部機関による検定試験の成績、研修・交流会等での実績も到達度評価の対象となることがあります。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/hose/>)

(概要)

産業理工学部は、近畿大学建学の精神に則り、実学教育のもとに、理系4学科では技術に偏らずコミュニケーション能力を持ったフロンティア人材を育成し、経営ビジネス学科では専門的知識に基づいた分析により組織をマネジメントしチームの潜在能力を高める能力を備えた人材を育成します。このために、次のような入学者を受入れます。

1. 自然科学や人文・社会科学の学修に必要な基礎知識、思考力、判断力、表現力を持っている人。
2. 新たなテクノロジーやイノベーション、世界の動向に強い関心があり、専門分野に偏ることなく広く学ぶ意欲のある人。
3. これからの新しい社会を築く試みに主体性を持って取り組み、多様な人々と協働する姿勢を持っている人。
4. 大学で学んだことを生かして、地域社会や国際社会に貢献したい人。
5. 実学教育と文理協働の発想に基づく教育に共感する人。

(入学前に学習すべきこと)

高等学校で学ぶ数学、国語、外国語はすべての分野に通じるので、十分な基礎学力を身に付けておいてください。理科、地理歴史・公民、情報については、専門分野と関係のある科目を中心に応用力も磨き、専門分野と直接関係の無い科目についても多様性を広げ世界の動向を理解するのに役立つので興味を持って学習してください。また、思考力、判断力、表現力を身に付けるとともに、物事に対する探究心と主体的に問題を解明・解決する姿勢を養ってください。

各教科では、とくに以下の能力を身に付けるように努めてください。

国語

社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使う能力。

他者との間での確に伝え合い、思考し想像する力。

我が国の言語文化の担い手としての自覚と、生涯にわたり国語能力の向上を図る態度。

外国語

外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。

日常的な話題や社会的な話題について、外国語で話し手や書き手の意図などを的確に理解し適切に表現することができる能力。

外国文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

数学

数学における基本的な概念や原理・法則を理解していること。

物事を論理的に考察し、その本質や他との関係を数学的に表現・処理する技能。

より具体的には、数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学Cで学ぶ基礎的な知識と計算力。

理科

自然現象についての理解を深めるために必要な観察、実験などに関する技能。

見通しを持って観察や実験などを行い、科学的に探究する力。

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学の法則・原理に照らし合わせて探究しようとする態度。

「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目以上にに関する基礎的な知識。

地歴・公民

日本と世界の歴史、及び現代の倫理・政治・経済の仕組みを理解するとともに、資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能。

地理や歴史的出来事の意味、及び相互の関連を多面的に考察し、効果的に説明する力。

現代社会の問題について、多面的に考察し公正に判断する力や社会参画を視野に入れて議論する力。

地理や歴史的問題に加え、現代の諸問題について、よりよい社会の実現を視野に入れて主体的に解決しようとする態度。

情報

情報社会と人との関わりを理解し、情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する技能。

様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力。

情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度。

（入学者選抜の基本方針）

1. 推薦入試（一般公募）では、個別学力検査において外国語、及び数学もしくは国語からの1教科（計2教科）選択により高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、加えて高等学校長が提出した推薦書等により各専門分野の修学に必要な科目の履修修得状況と学習意欲等を評価します。なお、外国語力についてはTOEFLやTOEIC等の外部試験の受験成績で評価することも可能です。

2. 一般入試では、個別学力検査において外国語、数学①または数学②もしくは国語からの1教科選択、及び理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物）もしくは地理歴史（世界史探究、日本史探究、地理探究）からの1科目（計3教科3科目）選択により高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

3. 共通テスト利用方式（大学入学共通テスト利用）入試では、外国語5科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）、国語、数学3科目（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B・数学C）、理科4科目（物理、化学、生物、地学）、地理歴史3科目（歴史総合・世界史探究、歴史総合・日本史探究、地理総合・地理探究）、公民3科目（公共・倫理、公共・政治・経済、地理総合・歴史総合・公共）、情報からの3教科3科目選択又は5教科5科目選択を基本として課すことにより高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。

※共通テスト利用方式には前期、中期、及び後期の3方式があり、また共通テストと本学一般入試から各2科目の成績を選択し評価する共通テスト併用方式による判定も行っています。

4. 総合型選抜では、数学もしくは英語（経営ビジネス学科）に関する学力試験により高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、出願書類（調査書・自己紹介書・プレゼンテーションシート）、及び口頭試問もしくは課題に対するプレゼンテーション（建築・デザイン学科、経営ビジネス学科）により各専門分野を学ぶ意欲と思考力、判断力、表現力を評価します。 5. 指定校推薦入試・附属特別推薦入試・準附属特別推薦入試では、高等学校長が提出した調査書等の書類により高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、口頭試問により各専門分野を学ぶ意欲と思考力、判断力、表現力を評価します。 6. スポーツ推薦入試では、高等学校長が提出した調査書等の書類により高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、技能試験と口頭試問により当該スポーツ種目（硬式野球）に関する技能・実績と当該学科（経営ビジネス学科）で学ぶ意欲を評価します。 7. 外国人留学生入試では、「日本留学試験」の日本語に加え、理科、数学コース 1、数学コース 2、総合科目から志望学科で定める 1 科目（計 2 科目）試験を課すことにより基礎学力を評価し、口頭試問により専門分野を学ぶ意欲と思考力、判断力、表現力を評価します。 8. 編入学試験では、大学はじめ出願資格に定める各種学校が発行した成績証明書等により専門分野に関する科目の修得状況を評価し、さらに外国語もしくは数学（電気電子工学科）、及び編入志望学科が指定する専門科目（無機化学、有機化学、生物化学・生物学、電気回路、構造力学、情報処理概論、経営学、会計学）から 1 科目（計 2 科目）試験を課すことにより学力を評価し、口頭試問により各専門分野を学ぶ意欲と思考力、判断力、表現力を評価します。
--

学部等名 通信教育学部法律学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/） （概要） 本学の学則に掲げており、通信教育学部では大学全体の方針に基づき、通信の方法によって人類の福祉に必要な学術の理論と応用とを教授し、併せて人格の陶冶と教養の向上に寄与すること、憲法・民法・商法・刑法などのいわゆる六法科目を中心に、法律学体系の基礎理論を学ぶとともに、さまざまな社会現象を把握する広い視野と法的な思考能力を身につけることを目的とすることを記載し、ホームページで公開している。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kindai.ac.jp/tsushin/about/educational_policy/） （概要） 通信教育学部は、近畿大学の建学の精神や教育の目的を念頭に、「激動する社会の中で広い視野と豊かな法的思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた 21 世紀を担う人材を育成すること」を教育目標としており、目標に照らした厳格な成績評価を行っています。所定の年限在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(法学)の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kindai.ac.jp/tsushin/about/educational_policy/） （概要） 通信制課程では、学力・能力・年齢・居住地域・生活環境など、千差万別な学習環境や入学の目的も異なる希望者が、入学資格を有していれば選抜すること無く入学許可が認められるため、学生の主体的学習機会の提供をできるカリキュラム編成が必要と考え、学問分野や専攻領域の体系的性を考慮したうえで必須となる科目を極力少なくし、他方選択科目を多く開講することで、選択肢つまり履修のバリエーションを整え、各自の学習目的の達成や学習計画を容易にすることを第一と考えています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kindai.ac.jp/tsushin/about/educational_policy/）

(概要)

通信教育法学部は、関西における大学通信教育の草分けであり、大学の門戸を広く社会に開放すべく設立されました。「いつでも・どこでも・誰でも」という基本方針のもと、近畿大学建学の精神に則り、法的に物事を考える姿勢を身につけた社会で求められる人材を育成します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）	
-------------	--

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7 人	—					7 人
法学部	—	29 人	13 人	1 人	1 人	0 人	44 人
経済学部	—	26 人	19 人	3 人	0 人	0 人	48 人
経営学部	—	47 人	38 人	9 人	0 人	0 人	94 人
理工学部	—	66 人	55 人	23 人	9 人	0 人	153 人
建築学部	—	16 人	10 人	7 人	1 人	0 人	34 人
薬学部(4 年制)	—	5 人	4 人	4 人	1 人	0 人	14 人
薬学部(6 年制)	—	15 人	12 人	8 人	5 人	0 人	40 人
文芸学部	—	29 人	22 人	10 人	0 人	0 人	61 人
総合社会学部	—	24 人	18 人	5 人	0 人	0 人	47 人
国際学部	—	12 人	15 人	2 人	0 人	0 人	29 人
情報学部	—	14 人	14 人	6 人	1 人	0 人	35 人
農学部	—	41 人	30 人	14 人	2 人	6 人	93 人
医学部	—	59 人	41 人	158 人	143 人	1 人	402 人
生物理工学部	—	36 人	24 人	11 人	3 人	0 人	74 人
工学部	—	37 人	25 人	15 人	1 人	0 人	78 人
産業理工学部	—	34 人	17 人	6 人	2 人	0 人	59 人
教養部(一般教育)	—	12 人	6 人	2 人	0 人	0 人	20 人
大学院	—	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	2 人
附属病院	—	38 人	21 人	61 人	117 人	2 人	239 人
附属研究所	—	22 人	16 人	16 人	5 人	1 人	60 人
その他	—	7 人	3 人	3 人	0 人	1 人	14 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	1,751(うち通信制課程兼務者 170 人)人	1,751 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： https://research.kindai.ac.jp/search/index.html
------------------------------	---

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

IR・教育支援センターにおいて、本学の全教員を対象とした全学FD・SD研究集会を毎年開催している。令和5年度はZoom形式で「アントレプレナーシップ」や「生成AIの活用」、「IRを活用した自己点検・評価と達成度評価」をテーマに実施しており、生成AIに関しては「基礎編」と「実践編」の2回にわけてワークショップも開催している。また各学部においては、それぞれの特性を考慮した学部FDを実施しており、テーマや出席状況はIR・教育支援センターへの報告を義務付けている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	500 人	529 人	105.8%	2,000 人	2,120 人	106.0%	人	0 人
経済学部	760 人	802 人	105.5%	3,040 人	3,265 人	107.4%	人	9 人
経営学部	1,340 人	1,430 人	106.7%	5,360 人	5,770 人	107.6%	人	64 人
理工学部	1,040 人	1,099 人	105.7%	4,250 人	4,584 人	107.9%	人	3 人
建築学部	280 人	299 人	106.8%	1,120 人	1,244 人	111.1%	人	3 人
薬学部 (4 年制)	40 人	40 人	100.0%	160 人	168 人	105.0%	人	0 人
薬学部 (6 年制)	150 人	153 人	102.0%	900 人	917 人	101.9%	人	0 人
文芸学部	515 人	540 人	104.9%	2,060 人	2,229 人	108.2%	人	2 人
総合社会学部	510 人	533 人	104.5%	2,040 人	2,184 人	107.1%	人	0 人
国際学部	500 人	527 人	105.4%	2,000 人	2,164 人	108.2%	人	0 人
情報学部	330 人	345 人	104.5%	990 人	1,013 人	102.3%	人	0 人
農学部	680 人	717 人	105.4%	2,720 人	2,880 人	105.9%	人	0 人
医学部	112 人	111 人	99.1%	670 人	709 人	105.8%	人	0 人
生物理工学部	485 人	519 人	107.0%	1,940 人	1,962 人	101.1%	人	0 人
工学部	545 人	579 人	106.2%	2,180 人	2,288 人	105.0%	人	1 人
産業理工学部	420 人	436 人	103.8%	1,680 人	1,730 人	103.0%	人	20 人
通信教育法学部	2,000 人	237 人	11.9%	8,000 人	1,684 人	21.1%	人	171 人
合計	10,207 人	8,896 人	87.2%	41,110 人	36,911 人	89.8%	人	273 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	482 人 (100%)	36 人 (7.5%)	404 人 (83.8%)	42 人 (8.7%)
経済学部	734 人 (100%)	7 人 (1.0%)	676 人 (92.1%)	51 人 (6.9%)
経営学部	1,339 人 (100%)	19 人 (1.4%)	1,206 人 (90.1%)	114 人 (8.5%)
理工学部	971 人 (100%)	311 人 (32.0%)	637 人 (65.6%)	23 人 (2.4%)
建築学部	270 人 (100%)	52 人 (19.3%)	203 人 (75.2%)	15 人 (5.6%)
薬学部 (4 年制)	35 人 (100%)	18 人 (51.4%)	15 人 (42.9%)	2 人 (5.7%)
薬学部 (6 年制)	148 人 (100%)	5 人 (3.4%)	139 人 (93.9%)	4 人 (2.7%)

文芸学部	487 人 (100%)	18 人 (3.7%)	424 人 (87.1%)	45 人 (9.2%)
総合社会学部	503 人 (100%)	18 人 (3.6%)	452 人 (89.9%)	33 人 (6.6%)
国際学部	469 人 (100%)	10 人 (2.1%)	409 人 (87.2%)	50 人 (10.7%)
農学部	645 人 (100%)	140 人 (21.7%)	477 人 (74.0%)	28 人 (4.3%)
医学部	100 人 (100%)	0 人 (0.0%)	82 人 (82.0%)	18 人 (18.0%)
生物理工学部	420 人 (100%)	96 人 (22.9%)	299 人 (71.2%)	25 人 (6.0%)
工学部	464 人 (100%)	71 人 (15.3%)	384 人 (82.8%)	9 人 (1.9%)
産業理工学部	383 人 (100%)	42 人 (11.0%)	328 人 (85.6%)	13 人 (3.4%)
合計	7,450 人 (100%)	843 人 (11.3%)	6,135 人 (82.3%)	472 人 (6.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大阪市役所、大阪府教育委員会、大阪府警察本部、積水ハウス株式会社、 大和ハウス工業株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社ニトリ、 日本生命保険相互会社、山崎製パン株式会社、りそなグループ、 大阪大学大学院、九州大学大学院、近畿大学大学院、神戸大学大学院、 奈良先端科学技術大学院大学 (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	532 人 (100%)	452 人 (85.0%)	57 人 (10.7%)	23 人 (4.3%)	人 (%)
経済学部	794 人 (100%)	669 人 (84.3%)	81 人 (10.2%)	44 人 (5.5%)	人 (%)
経営学部	1,348 人 (100%)	1,167 人 (86.6%)	127 人 (9.4%)	54 人 (4.0%)	人 (%)
理工学部	1,109 人 (100%)	877 人 (79.1%)	143 人 (12.9%)	89 人 (8.0%)	人 (%)
建築学部	299 人 (100%)	244 人 (81.6%)	34 人 (11.4%)	21 人 (7.0%)	人 (%)
薬学部(4年制)	41 人 (100%)	33 人 (80.5%)	3 人 (7.3%)	5 人 (12.2%)	人 (%)
薬学部(6年制)	149 人 (100%)	123 人 (82.6%)	16 人 (10.7%)	10 人 (6.7%)	人 (%)
文芸学部	541 人 (100%)	441 人 (81.5%)	65 人 (12.0%)	35 人 (6.5%)	人 (%)
総合社会学部	525 人 (100%)	450 人 (85.7%)	48 人 (9.1%)	27 人 (5.1%)	人 (%)
国際学部	529 人 (100%)	428 人 (80.9%)	73 人 (13.8%)	28 人 (5.3%)	人 (%)

農学部	693 人 (100%)	623 人 (89.9%)	40 人 (5.8%)	30 人 (4.3%)	人 (%)
医学部	115 人 (100%)	79 人 (68.7%)	31 人 (27.0%)	5 人 (4.3%)	人 (%)
生物理工学部	470 人 (100%)	390 人 (83.0%)	37 人 (7.9%)	43 人 (9.1%)	人 (%)
工学部	508 人 (100%)	432 人 (85.0%)	43 人 (8.5%)	33 人 (6.5%)	人 (%)
産業理工学部	418 人 (100%)	349 人 (83.5%)	35 人 (8.4%)	34 人 (8.1%)	人 (%)
合計	8,071 人 (100%)	6,757 人 (83.7%)	833 人 (10.3%)	481 人 (6.0%)	人 (%)
(備考) 入学者数については転学部による転入・転出を考慮した人数を計上している。内訳は以下のとおり。 〔転入〕 経済学部：1 人・経営学部：15 人・理工学部：3 人・建築学部：2 人・薬学部(6 年制)：1 人・ 文芸学部：3 人・総合社会学部：2 人・農学部：12 人・生物理工学部：1 人・産業理工学部： 4 人 合計：44 人 〔転出〕 法学部：1 人・経済学部：2 人・経営学部：1 人・理工学部：6 人・文芸学部 2 人・総合社会学 部：1 人・農学部：7 人・生物理工学部：5 人・産業理工学部：18 人 合計：43 人					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) IR・教育支援センターが中心となり、上記内容を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」を作成。これに基づくシラバス作成の依頼を各学部に対して行い、学部内でのシラバス点検・監査報告の提出も併せて義務付けている。このような取り組みを経て、授業計画（シラバス）を作成し、本学のホームページ上で公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) IR・教育支援センターが中心となり作成した、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を含む項目の記載例等、詳細な記載ルールを盛り込んだ「シラバス記入上の留意事項」において、成績評価方法及び基準という項目にて成績評価の考え方をよい記入例・悪い記入例を示しながら、適切な評価方法を記載するよう周知し、学部内における点検・監査項目のひとつとしてチェックを行っている。 また IR・教育支援センターでは、大学全体の卒業の認定に関する方針を継続的にモニタリングしており、各学部は大学全体の方針に基づき、学部学科等の卒業の認定方針を定期的に見直し、ホームページ等に外部公開している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法律学科	128 単位	有・無	49 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	49 単位
	総合経済政策学科	128 単位	有・無	49 単位
	国際経済学科	128 単位	有・無	49 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	44 単位
	商学科	124 単位	有・無	44 単位
	会計学科	124 単位	有・無	44 単位

	キャリア・マネジメント学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	44 単位
理工学部	理学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	生命科学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	応用化学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	機械工学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	電気電子通信工学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	情報学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	社会環境工学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	エネルギー物質学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
建築学部	建築学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
薬学部	医療薬学科	192 単位	☒ 有 ☐ 無	18 科目 (1 年次前期)
				18 科目 (1 年次後期)
				23 科目 (2 年次前期)
				24 科目 (2 年次後期)
				17 科目 (3 年次前期)
				13 科目 (3 年次後期)
				12 科目 (4 年次前期)
				6 科目 (4 年次後期)
				5 科目 (5 年次前期)
				5 科目 (5 年次後期)
				10 科目 (6 年次前期)
				4 科目 (6 年次後期)
				※単位数ではなく科目数で上限を設定
	創薬科学科	128.5 単位	☒ 有 ☐ 無	19 科目 (1 年次前期)
				20 科目 (1 年次後期)
				18 科目 (2 年次前期)
				19 科目 (2 年次後期)
				15 科目 (3 年次前期)
				11 科目 (3 年次後期)
				8 科目 (4 年次前期)
				5 科目 (4 年次後期)
				※単位数ではなく科目数で上限を設定
文芸学部	文学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	芸術学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	文化・歴史学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
	文化デザイン学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
総合社会学部	総合社会学科	126 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
国際学部	国際学科	126 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
情報学部	情報学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	48 単位
農学部	農業生産科学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	49 単位
	水産学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	49 単位
	応用生命化学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	49 単位
	食品栄養学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	49 単位
	環境管理学科	124 単位	☒ 有 ☐ 無	49 単位

	生物機能科学科	124 単位	有・無	49 単位
医学部	医学科	共通教養科目から 16 単位以上、外国語科目から 9 単位以上、学部基礎科目 675 時間以上、専門科目は 4, 675 時間以上	有・無	全授業科目が必修科目のため登録上限はなし
生物理工学部	生物工学科	124 単位	有・無	49 単位
	遺伝子工学科	124 単位	有・無	49 単位
	食品安全工学科	124 単位	有・無	49 単位
	生命情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	人間環境デザイン工学科	124 単位	有・無	49 単位
	医用工学科	124 単位	有・無	49 単位
工学部	化学生命工学科	124 単位	有・無	49 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報学科	124 単位	有・無	49 単位
	建築学科	124 単位	有・無	49 単位
	電子情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	ロボティクス学科	124 単位	有・無	49 単位
産業理工学部	生物環境化学科	124 単位	有・無	49 単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	49 単位
	建築・デザイン学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報学科	124 単位	有・無	49 単位
	経営ビジネス学科	124 単位	有・無	49 単位
通信教育法学部	法律学科	124 単位 3 年編入 126 単位	有・無	1 年：46 単位 2～4 年：49 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：各学部における面談実施要項において、GPA 値が定める水準を下回った学生に対しては、修学支援の面談を実施している。 （通信教育部） 通信教育部独自の給付型奨学金採用に使用しており全学生に配布している補助教材にて掲載し周知している。		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：授業評価アンケートの全学結果： https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/enquete/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
法学部 1 年	法律学科	1, 105, 000 円	250, 000 円	0 円	
法学部 2 年	法律学科	1, 125, 000 円	0 円	0 円	
法学部 3 年	法律学科	1, 145, 000 円	0 円	0 円	
法学部 4 年	法律学科	1, 165, 000 円	0 円	0 円	
経済学部 1 年	経済学科	1, 105, 000 円	250, 000 円	0 円	
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 2 年	経済学科	1, 125, 000 円	0 円	0 円	
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 3 年	経済学科	1, 145, 000 円	0 円	0 円	
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経済学部 4 年	経済学科	1, 165, 000 円	0 円	0 円	
	総合経済政策学科				
	国際経済学科				
経営学部 1 年	経営学科	1, 105, 000 円	250, 000 円	0 円	
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 2 年	経営学科	1, 125, 000 円	0 円	0 円	
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 3 年	経営学科	1, 145, 000 円	0 円	0 円	
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
経営学部 4 年	経営学科	1, 165, 000 円	0 円	0 円	
	商学科				
	会計学科				
	キャリア・マネジメント学科				
理工学部 1 年	理学科	1, 462, 000 円	250, 000 円	0 円	
	生命科学科				

	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子通信工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
	エネルギー物質学科				
理工学部 2 年	理学科	1, 492, 000 円	0 円	0 円	
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子通信工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
	エネルギー物質学科				
理工学部 3 年	理学科	1, 522, 000 円	0 円	0 円	
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子通信工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
	エネルギー物質学科				
理工学部 4 年	理学科	1, 552, 000 円	0 円	0 円	
	生命科学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	電気電子通信工学科				
	電気電子工学科				
	社会環境工学科				
	情報学科				
	エネルギー物質学科				
建築学部 1 年	建築学科	1, 462, 000 円	250, 000 円	0 円	
建築学部 2 年	建築学科	1, 492, 000 円	0 円	0 円	
建築学部 3 年	建築学科	1, 522, 000 円	0 円	0 円	
建築学部 4 年	建築学科	1, 552, 000 円	0 円	0 円	
薬学部 1 年	医療薬学科	2, 052, 000 円	250, 000 円	0 円	
	創薬科学科	1, 462, 000 円	250, 000 円	0 円	

薬学部	医療薬学科	2,082,000 円	0 円	0 円	
2 年	創薬科学科	1,492,000 円	0 円	0 円	
薬学部	医療薬学科	2,112,000 円	0 円	0 円	
3 年	創薬科学科	1,522,000 円	0 円	0 円	
薬学部	医療薬学科	2,142,000 円	0 円	0 円	
4 年	創薬科学科	1,552,000 円	0 円	0 円	
薬学部	医療薬学科	2,172,000 円	0 円	0 円	
5 年					
薬学部	医療薬学科	2,202,000 円	0 円	0 円	
6 年					
文芸学部	芸術学科	1,462,000 円	250,000 円	0 円	
1 年	文学科	1,105,000 円	250,000 円	0 円	
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部	芸術学科	1,492,000 円	0 円	0 円	
2 年	文学科	1,125,000 円	0 円	0 円	
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部	芸術学科	1,522,000 円	0 円	0 円	
3 年	文学科	1,145,000 円	0 円	0 円	
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
文芸学部	芸術学科	1,552,000 円	0 円	0 円	
4 年	文学科	1,165,000 円	0 円	0 円	
	文化・歴史学科				
	文化デザイン学科				
総合社会学部	総合社会学科	1,105,000 円	250,000 円	0 円	
1 年					
総合社会学部	総合社会学科	1,125,000 円	0 円	0 円	
2 年					
総合社会学部	総合社会学科	1,145,000 円	0 円	0 円	
3 年					
総合社会学部	総合社会学科	1,165,000 円	0 円	0 円	
4 年					
国際学部	国際学科	1,300,000 円	250,000 円	0 円	
1 年					
国際学部	国際学科	1,300,000 円	0 円	0 円	
2 年					
国際学部	国際学科	1,320,000 円	0 円	0 円	
3 年					
国際学部	国際学科	1,320,000 円	0 円	0 円	
4 年					

情報学部 1 年	情報学科	1,462,000 円	250,000 円	0 円	
情報学部 2 年	情報学科	1,492,000 円	0 円	0 円	
情報学部 3 年	情報学科	1,522,000 円	0 円	0 円	
情報学部 4 年	情報学科	1,552,000 円	0 円	0 円	
農学部 1 年	農業生産科学科	1,462,000 円	250,000 円	0 円	
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 2 年	農業生産科学科	1,492,000 円	0 円	0 円	
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 3 年	農業生産科学科	1,522,000 円	0 円	0 円	
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
農学部 4 年	農業生産科学科	1,552,000 円	0 円	0 円	
	水産学科				
	応用生命化学科				
	食品栄養学科				
	環境管理学科				
	生物機能科学科				
医学部 1 年	医学科	5,800,000 円	1,000,000 円	0 円	
医学部 2～6 年	医学科	5,800,000 円	0 円	0 円	
生物理工学 部 1 年	生物工学科	1,462,000 円	250,000 円	0 円	
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				

生物理工学部 2 年	生物工学科	1, 492, 000 円	0 円	0 円	
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
生物理工学部 3 年	生物工学科	1, 522, 000 円	0 円	0 円	
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
生物理工学部 4 年	生物工学科	1, 552, 000 円	0 円	0 円	
	食品安全工学科				
	遺伝子工学科				
	生命情報工学科				
	人間環境デザイン工学科				
	医用工学科				
工学部 1 年	化学生命工学科	1, 398, 000 円	250, 000 円	0 円	
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
工学部 2 年	化学生命工学科	1, 428, 000 円	0 円	0 円	
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
工学部 3 年	化学生命工学科	1, 458, 000 円	0 円	0 円	
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				
	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
工学部 4 年	化学生命工学科	1, 488, 000 円	0 円	0 円	
	機械工学科				
	情報学科				
	建築学科				

産業理工学部 1 年	電子情報工学科				
	ロボティクス学科				
	生物環境化学科	1,264,000 円	250,000 円	0 円	
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
産業理工学部 2 年	経営ビジネス学科	889,000 円	250,000 円	0 円	
	生物環境化学科	1,294,000 円	0 円	0 円	
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
産業理工学部 3 年	経営ビジネス学科	919,000 円	0 円	0 円	
	生物環境化学科	1,324,000 円	0 円	0 円	
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
産業理工学部 4 年	経営ビジネス学科	949,000 円	0 円	0 円	
	生物環境化学科	1,354,000 円	0 円	0 円	
	電気電子工学科				
	建築・デザイン学科				
	情報学科				
	経営ビジネス学科	979,000 円	0 円	0 円	

(通信教育部)

令和2年度入学生からの学費

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	150,000 円	20,000 円	0 円	

令和元年度入学生までの学費

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	70,000 円	20,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 旧 21 世紀教育改革委員会【内、学生生活支援検討委員会】が中心となり、学生支援に関する大学としての基本方針ならびに改善目標を策定・公表し、現在は学生部と IR・教育支援センターが連携のうえ維持向上を図っている。修学に係る支援に関しては、全学部が面談基準を策定しており、学期途中においては定めた出席率を下回った学生に対し、教職員が連携して学期途中の早期支援面談を実施している。また、学期終了時の成績不振者に対しても面談を実施し、修学意欲の低下を防止する体制を全学的に構築している。 高等教育修学支援制度の適格認定（学業）においても、警告基準（下位 1/4）に該当した学生の情報を各学部に関連し、学生の修学指導に適宜活用している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターではキャリアガイダンス、業界研究会、課外講座、インターンシップ、TOEIC の学内試験など、低年次からも利用できるプログラムを多く取り揃えている。加えて、海外キャリア研修や業界特化型キャリアゼミなど多様なニーズに対応した支援も実施している。さらに、TSUNAGU プロジェクトとして、留年生・留学生を対象に、就職活動に対しての不安を早期からの個別サポートで解消していく「スタートアップサポート制度」、就職活動がうまく進まず不安を抱える学生に呼びかけ、これまでの就活の振り返りをおこない、個別アドバイスをおこなう「リスタートサポート制度」、最終学年の秋時点で進路未決定の学生を対象に若手職員が学生一人ひとりの身近な理解者として、教員や各学部学生センター、キャリアセンターとの懸け橋となり進路に関わる相談をおこなう「キャリアアシスタント制度」等を実施し、卒業まで全学あげて支援を行っている。また、東京センターにおいては、首都圏での就職活動をおこなう学生を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 大学の協力により、学生の相互扶助制度である「近畿大学学園学生健保共済会」を設け、100 円朝食、水素水や浄水器の設置、スポーツ施設「KEEP」の運営、アルコールパッチやマスクの配布、健康や友達作りをテーマとした学生イベントや講演会の実施、学生が利用する提携施設への宿泊補助などを実施する健康増進事業と医療費支払い時の給付を目的とした保険共済事業などを行っている。 障がい学生支援においては、東大阪キャンパス学生部に障がい学生支援担当を置き、各学部・キャンパス学生センター及び関連所管と協力して、障がい学生の課題や問題を確認のうえ、修学支援および障がい学生のサポート、施設の整備などに取り組んでいる。 また、各キャンパスの保健管理室では、応急措置以外にも健康相談や心身についての悩みなどをカウンセリングする精神衛生相談を行っているほか、最も学生数が多い東大阪キャンパスでは、メディカルサポートセンターにおいて保険診療も実施するなど、心身両面から修学支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108116
学校名 (〇〇大学 等)	近畿大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人近畿大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		3,319人	3,250人	3,759人
内 訳	第Ⅰ区分	2,044人	2,044人	
	第Ⅱ区分	803人	822人	
	第Ⅲ区分	472人	384人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				36人
合計（年間）				3,795人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	72人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	20人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	89人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	9人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	1人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	428人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	8人	人	人
計	432人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。